

## あとがき

本書は、2015年11月3日、大阪大学で開催した研究セミナー「中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来」の記録である（大阪大学未来研究イニシアティブ「21世紀課題群と中国」主催、大阪大学未来研究イニシアティブ「MULTUMで切り拓くオンサイトマススペクトロメトリー」共催）。

大阪大学中国文化フォーラム（Osaka University Forum on China）は、2013年8月に「現代中国と東アジアの新環境」第7回国際シンポジウムを大阪大学で開催、21世紀東アジアを「リスク社会」と捉え、学際的視点からその構造変化の態様を検討した。さらに同フォーラムが提起した「21世紀課題群と中国」が大阪大学未来研究イニシアティブ・グループ支援事業（2013～2015年度）の認定を受け、同じく認定を受けた理学研究科が提起する「MULTUMで切り拓くオンサイトマススペクトロメトリー」との協働が展望された。

2014年10月に大阪大学で開催した研究セミナー「東アジア“生命健康圏構築に向けて”：大気汚染と健康問題を考える日中国際会議」では、PM2.5問題について公衆衛生・環境法・質量分析学および環境行政の立ち位置から文理を架橋する多角的な討論を行った〔OUFCブックレット ISSN:2187-6487(online)、第6巻、236頁〕。このセミナーにおいて、文理を跨ぐ研究者間の対話が産学協同や行政の役割を視野に納めることの重要性を確認した。

豊田岐聡（理学研究科）、高田篤（法学研究科）、思沁夫（グローバルコラボレーションセンター）、三好恵真子（人間科学研究科）、山田康博（国際公共政策研究科）と田中によるプレーストーミングによって、今回のセミナーの位置づけと具体化、さらに今後の共同研究のありかたについての共通認識を探っていった。その一端は、本書所収の「はじめに」「所感と提言」に示されているが、今後、地域研究における文理融合モデルを探求するプラットフォーム構築にむけて、さらに議論を深めてゆきたい。（田中仁）